



# 俳句

( 2025 )



## 目次

|       |        |        |
|-------|--------|--------|
| 歳時記俳句 | モーロク俳句 | たべもの俳句 |
| 1     | 4      | 9      |
| ゝ     | ゝ      | ゝ      |

一般的には、木の葉の紅葉が進み、葉が落ちる月、「葉落ち月（はおちづき）」が略されたものといわれています。また、稲の穂を張る月、すなわち「穂張り月（ほはりづき）」が略されたという説、初めてガン渡ってくる月であることから「初来月（はつきづき）」を略して「葉月」と呼んだ説などがあります。

（宇佐美保幸）メール・yasuyuki.usami@gmail.com

毎日の俳句は次のブログに  
巢鴨とげぬき徒然俳句

<https://blog-haiku.777usami.com>

かき氷格差あらわになりになり

ゆく夏を焼き肉店で惜しみけり  
くつきりと田んぼアートやゆく夏に  
夏の果吾も果て行くまもなくに

テントから漏れる香りの蚊遣香  
人の世の疲れを流し髪洗う

かげろふの生きる奮闘数時間  
樹になれぬ蝉は落ち行く土になる

今日もまた深夜食堂星祭り  
パソコンの壁紙替えて秋はじめ

朝顔に朝の挨拶朝の水  
朝顔の色を鮮やか朝の雨



芭蕉葉に氣候變動豪雨かな  
山の日の救急隊や熱中症

初秋の風きたる耳中耳炎

天の川同性婚も許されて  
集落は集団移転天の川  
核融合夢の電力天の川

黙祷す蟬もトンボも終戦日  
格差など無縁となりし盆踊り

就活の悔しさつのる白木槿  
それぞれに優しさ求め蒲穂絮

めはじきと知る人すこし野にありて  
雑草という草はなし力草



黒き実で少子化制す藪茗荷  
少子化の時代を制す藪茗荷  
藪茗荷白き花から黒き実に

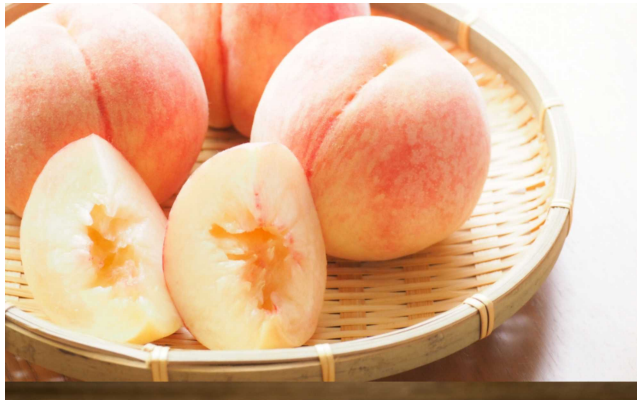
平和論防衛放棄白桔梗  
鯖たちも陸で育つて雑木山

秋暑しブログの誤字が多くなり  
いつまでも変わらぬ政治秋暑し  
秋暑し今日も昼餉は塩むすび

葛の葉が丘を覆いし草を超え  
生真面目に花を咲かせる葛茂る

桃食べて桃太郎の善と悪  
デザートは桃だ白桃あえて桃

揚花火幸福物質隅田川

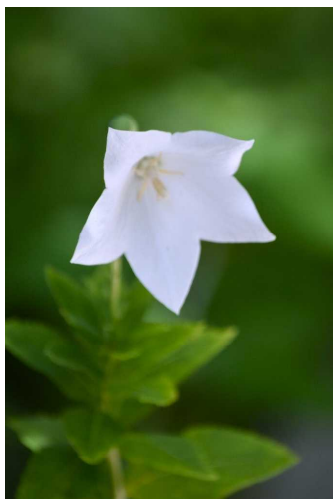


揚花火引力消えて空に消ゆ

鉦叩ブログ原稿一休み

新涼や塩鮭味噌汁定番で

枝豆をゆでてそれからパーティーを  
八月尽夏は終わらず秋遠し



# モーロク俳句

モーロクし八月の修羅目に耳に  
モーロクし延々続く夏休み

涼しかり死に方論じモーロクす  
モーロクし蝉の死骸に吾を見る  
モーロクし飛べぬ蝉にとなりにけり

逝く夏や消えゆくものやモーロクし  
夏の果モーロクすれば安堵して

モーロクし一雨欲しき秋に入る  
モーロクし己れが見えず秋に入る

宇宙論モーロクすれど天の川  
モーロクし見えざるがよし銀河澄む



モーロクし逆らいながら遠銀河  
モーロクし銀河の渦に沈没す  
銀河系宇宙に生まれモーロクす

モーロクす縮むあさがほしづつ  
朝顔の色移ろいてモーロクす

モーロクしハイビスカスに叱られる  
モーロクしつくづくわれはきりぎりす

モーロクし種が入れ歯に西瓜食ぶ  
モーロクしされどシブトク山椒の実

闇深きモーロクすれば花火後  
モーロクし段取り遅れ蕎麦の花

モーロクし途方にくれる盆の月  
モーロクし会えぬ人増え盆の月



モーロクしされど気取りし実葛  
モーロクしいろ錆びてきし女郎花

花木槿すなほに咲いてモーロクす

モーロクし命はるか白桃や  
モーロクし白桃むけてご機嫌に  
白桃の傷みゆくごとモーロクす  
桃熟れるされどモーロク空耳か

かなかなやかなかなやモーロクす  
カナカナの声もモーロク夕暮れる  
モーロクしなんまいだぶつ蝸や

モーロクす銀河もやがてモーロクす  
モーロクし座席を予約銀河まで

モーロクし朝の挨拶露草に



白粉草タブーな話モーロクす  
モーロクし後幾ばくか鉦叩  
モーロクし死ぬまで生きる星流る

モーロクし吾来し方に法師蟬  
モーロクしうまい嘘つく法師蟬  
モーロクし生きているだけ法師蟬

モーロクしできることなく遠花火  
不滅です吾はモーロク遠花火

残暑かな脳の怠慢モーロクす  
ロボットもモーロクするか残暑かな  
残暑かなそうかそうだとモーロクす

モーロクし怨みの色の葛の花  
モーロクし風吹き惑ふ葛の花  
萩咲けりモーロクすれば眠たき日



たべもの俳句

赤羽は猛暑なれども朝酒を  
夏バテにふわふわ卵豚キムチ

フレッシュトマト冷やしえびチリ白ワイン  
酷暑日に街中華屋でオムライス  
夕立に慌てとびこむ街中華

菜園の最後のトマトマリネして  
もりかざる少し迷いて夏の昼

七夕を祝い自慢のちらし寿司  
立秋に水ようかんと水出し茶

初秋や豚しゃぶサラダポン酢かけ  
後期高齢西瓜一切れあればよし



いんげんのおかかマヨあえくせになり  
いんげんをたつぷりおかかで甘辛煮

白ごまの風味効かせてオクラあえ  
レンチンしオクラのナムルパパッと

麦飯に味噌汁かけて終戦日

白桃はやはり岡山桃太郎  
白桃の雫恍惚啜りけり

桃食べてここからが闇罪と罰  
デザートの桃の余生は短けり

しし唐を焼いてめんつゆ漬けるだけ  
冬瓜の鶏そぼろあん口当たり

秋鰯も味噌や薬味でなめろうに



秋鰯をからりと揚げて南蛮に  
秋鰯を焼いて南蛮漬け風に

戻り鰯青のり加えパン粉焼き  
戻り鰯焼いて冷やしてカルパッチョ  
戻り鰯黄身醤油漬けスパイシー  
手間いらず戻りかつおの漬け井で  
戻りかつお濃厚味噌だれ十五分

秋鰯の無手勝流の味噌煮かな  
豆味噌で秋鰯味噌煮こつてりと  
秋鰯の焼き塩加減地酒かな  
秋鰯の脂じゅわつと塩焼きに

秋なすをカリッと揚げてマリネかな

枝豆を食べてご飯は無しとする  
枝豆に塩ふる音や赤穂塩



枝豆をぺぺロンチーノおつまみに

秋野菜余熱じつくり精進煮

居酒屋の秋刀魚は小さくなり  
にけり  
米高し秋刀魚も高し高止まり  
ご飯に合う秋刀魚かば焼き  
甘辛に  
井に秋刀魚かば焼きシンプルに

